

アナログウォッチ保証書 取扱説明書

取扱説明書番号 M-010A

このたびは、弊社製品をお買い上げいただきましてありがとうございます。ご使用前にこの取扱説明書をよくお読みの上、正しくお使いくださいますようお願い申し上げます。なお、この取扱説明書は大切に保管し、必要に応じてご覧ください。

保証書	
本保証書は日本国内のみに有効です。 THIS GUARANTEE IS VALID ONLY IN JAPAN. 此保証書適用範囲仅限日本国内有效。	
保証期間：お買上日より1年間	
お買上日： 年 月 日	
お客様名	様
販売店	

- <保証規定>
- この時計をご使用中、取扱説明書にそった正常なご使用状態で自然故障を生じた場合には、下記保証規定により無料で修理・調整いたします。
- 保証の対象となる部分
- ウォッチの回路、コイル等電気部品、歯車等機械部品
- 保証の態様（方法）
- 修理・調整を原則といたします。
- 修理の際、ガラス・ケース・文字板・針・りゅうず・バンドなどは一部代替部品を使用させていただくことがありますので、ご了承ください。
- 保証を受けるための条件（手続き）
- 保証規定による修理・調整の際は必ず現品に保証書を添えてお買い上げ店にご持参ください。
- ご贈答・ご転居などにより、お買い上げ店での保証を受けられない場合は、**【Q6Q】**お客様相談室にお問い合わせください。
- 保証の適用除外
- 保証期間中でも次の場合は有料修理となりますのでご了承ください。
- 革バンド、ウレタンバンド、電池交換及び使用中に生じる外観上の変化（ガラス、ケース、バンド類の小傷、汚れ）
 - お客様ご自身による修理・改造または、誤ったご使用や不注意による故障及び損傷。
 - 保証書のご提示がない場合。
 - 保証書にお買い上げ店名及びお買い上げ年月日の記載がない場合、あるいは字句を書き換えられた場合。
 - 天災・火災・事故などによる故障及び損傷。
- ※保証書に明示した期間、条件のもとにおいて無料修理を保証するもので、これによりお客様の法律上の権利を制限するものではありません。
- ※本保証書は、日本国内のみ有効です。

保証とアフターサービスについて

- 保証について

正常なご使用で、保証期間内に万一故障が生じた場合には、保証書に従い、無料修理いたします。
- 修理用部品について

ケース・ガラス・文字板・針・りゅうず・プッシュボタン・バンドなどの外装部品には、外観の異なる代替部品を使用させていただく場合がありますので、予めご了承ください。
- ご転居・ご贈答品の場合

保証期間中にご転居されたり、ご贈答品のためにご使用の時計がお買い上げ店のアフターサービスを受けられない場合には、下記**【Q6Q】**お客様相談室へご相談ください。
- 定期点検（有償）について

・防水性能について
防水時計の防水性能は経年劣化しますので、安全に長くご使用いただくために2～3年に一度防水検査を行なっていただくことをお勧めします。防水性能を維持するためには、部品の交換が必要ですので、パッキンなどの交換を依頼してください。

・分解掃除（内装修理）について
腕時計を長くご使用いただくには分解掃除（内装修理）が必要です。歯車などの部品は長くご使用いただくことにより磨耗してしまいますが、これを抑えるために潤滑油を使用しております。しかし経年劣化により潤滑油の汚れなどで部品の磨耗が進み、故障に至ることがあります。目安として5年に一度の分解掃除のご依頼をお勧めします。
- その他お問い合わせについて
保証や修理、その他不明な点がございましたら、お買い上げ店または下記**【Q6Q】**お客様相談室へご相談ください。

サービス窓口：【Q6Q】お客様相談室	
TEL.	03-6631-2775
受付時間	9:30～17:30 月～金（祝日、年末年始を除く）
メールアドレス	qssupport@citizen.co.jp
URL	http://qq-watch.jp
製造発売元 シチズン時計株式会社 国内時計営業本部 【Q6Q】課	

安全上のご注意（必ずお守りください）

お使いになる人や他の人への危害、財産への損害を未然に防止するため、必ずお守りいただくことを、次のように説明しています。

■表示内容を無視して誤った使い方をしたときに生じる危害や損害の程度を、次の表示で区分し、説明しています。

	警告	この表示の欄は、「死または重傷などを負う可能性が想定される」内容です。
	注意	この表示の欄は、「障害を負う可能性または物的障害のみが発生する可能性が想定される」内容です。
	注意	■お守りいただく内容の種類や、次の絵表示で区分し、説明しています。（下記は絵表示の一例です。）
	注意	このような絵表示は、気を付けていただきたい「注意喚起」内容です。

ご使用になる前に

十分に光を当てて充電してからご使用ください。

この時計には電気エネルギーを蓄えるために二次電池が使われています。この二次電池は、水銀などの有害物質が一切使われていないクリーンエネルギー電池です。持続時間の目安は、「製品仕様 5. 持続時間」をご覧ください。

お取り扱いにあたって

- △注意 人への危害を防ぐために**
- ・幼児を抱くときなどは、幼児のけがや事故防止のため、あらかじめ時計を外すなど十分ご注意ください。
 - ・激しい運動や作業などを行うときは、ご自身や第三者へのけがや事故防止のため、十分ご注意ください。
 - ・サウナなど時計が高温になる場所では、やけどの恐れがあるため絶対に使用しないでください。
 - ・バンドの中留め構造によっては、着脱の際に爪を傷つける恐れがありますのでご注意ください。
 - ・時計をしまったまま寝寝しないでください。思わぬけがやかぶれを引き起こす恐れがあります。
- △注意 使用上の注意**
- ・りゅうずは常に押し込んだ状態（通常位置）でご使用ください。りゅうずがねじ締めタイプであれば、しっかり固定されているが確認してください。水分のついたままりゅうず操作をしないでください。時計内部に水分が入り防水不良となる場合があります。
 - ・万一、時計内部に水が入ったり、またガラスの面内にクモリが発生し長時間消えないときは、そのまま放置せず、お買い上げ店または、**【Q6Q】**お客様相談室へ修理、点検を依頼してください。
 - ・時計の防水性能が高い場合でも、次のことにご注意ください。
 - 海水に浸したときは、真水で洗いきれた布で良くふきとる。
 - 水道水を蛇口から直接時計にかけない。
 - 入浴するときは時計ははずす。
 - ・時計内部に海水が入った場合には、箱やビニール袋に入れてすぐに修理依頼をしてください。時計内部の圧力が増まり、部品（ガラス、りゅうず、プッシュボタンなど）が外れる危険があります。

- △注意 携帯時の注意（バンドについて）**
- ・皮革バンドやウレタンバンド（ゴムバンド）は、汗や汚れにより劣化します。定期的な交換を行ってください。
 - ・皮革バンドは材質の特性上、水に濡れると耐久性に影響がでる場合があります。（脱色、接着がはがれ）また、かぶれる原因にもなります。
 - ・皮革バンドの時計は防水時計であっても、水を使うときは時計を外すことをおすすめします。
 - ・バンドは多少余裕を持たせ、通気性を良くしてご使用ください。
 - ・ウレタンバンド（ゴムバンド）は、衣類等の染液や汚れが付着し、除去できないことがあります。色落ちするもの（衣類、バッグ等）と一緒に使用する場合はご注意ください。また、溶剤や空気中の湿気などにより劣化する性質があります。弾力性がなくなり、ひび割れを生じたらお取り替えください。

- ・以下の場合、速やかにバンドの調整・修理をご依頼ください。
 - 腐食により、バンドに異常が認められたとき
 - バンドのピンが飛び出しているとき
 - ・お客様ご自身で時計のバンド（金属やゴム）の長さを調整しないでください。時計が落下したり、調整時にケガをする恐れがあります。（製品にバンド調整用の道具が付属している場合は除く）バンドの調整は、お買い上げ店または、**【Q6Q】**お客様相談室にて承っております。その他のお店では有料もしくは取り扱っていない場合があります。
- （温度について）**
- ・極端な高温/ 低温の環境下では、時計が停止したり、機能が低下する場合があります。
- （磁気について）**
- ・アナログ式ウォッチ時計は、磁石を利用した「ステッピングモーター」で動いており、外部から強い磁気を受けるとモーターの動きがみだされて、正しい時刻を表示しなくなる場合があります。磁気の強い健康器具（磁気ネックレス・磁気健康巻帯など）、冷蔵庫のマグネットドア、バッグの留め具、携帯電話のスピーカ部、電磁調理器などに近づけないでください。

- （ショックについて）**
- ・防水時計の防水性能は経年劣化しますので、安全に長くご使用いただくために2～3年に一度防水検査を行なっていただくことをお勧めします。防水性能を維持するためには、部品の交換が必要ですので、パッキンなどの交換を依頼してください。
- （静電気について）**
- ・ウォッチ時計に使われている I C は、静電気に弱い性質を持っています。強い静電気を受けると正しい時刻を表示しない場合がありますので、ご注意ください。
- （化学薬品・ガス・水銀について）**
- ・化学薬品・ガスの中でのご使用はお避けください。シンナー・ペンジン等の各種溶剤およびそれらを含有するもの（ガソリン・マニキュア・フレズール・トイレ用洗剤・接着剤・撥水剤など）が時計に付着しますと、変色・溶解・ひび割れ等を起こす場合があります。薬品類には十分注意してください。また、体温計などに使用されている水銀に触れたりしますと、ケース・バンド等が変色することがありますのでご注意ください。

（保護シールについて）

- ・時計のガラス部分や金属部分（銀ぶた、バンド、中留め）にシールが貼られているときは、ご使用前に必ずはがしてください。シールのすき間に汗や水分が入り込むと、皮膚のかぶれや金属の腐食の原因となる場合があります。

- △注意 時計は常に清潔に**
- ・りゅうずやプッシュボタンを長期開動させないままにしていると、付着しているゴミや汚れが固まり、操作できなくなる事がありますので、ときどきりゅうずを空回らせたり、プッシュボタンを押してください。また、ゴミ、汚れを落としてください。
 - ・ケースやバンドは、肌着類と同様に直接肌に接しています。金属の腐食や汗、汚れ、ほこりなどの気づかない汚れで衣類の袖口などを汚す場合があります。常に清潔にしてご使用ください。
 - ・ケースやバンドは直接肌に接しています。ケースやバンドに発生したサビ、汚れ、付着した汗、または金属、皮革アレルギーなどにより皮膚にかゆみかぶれを生じる場合があります。異常を感じたらすぐに使用を中止して医師に相談してください。
 - ・汗や汚れが付着した場合は、金属材質のバンドやケースは、はけなどを使い中性洗剤で汚れを除去してください。皮革材質のバンドは、乾いた布などで拭き、汚れを除去してください。
 - ・皮革バンドは汗や汚れにより「色落ち」を起こすことがあります。乾いた布で拭くなどして常に清潔にご使用ください。

防水性能について

- △警告 防水性能について**
- ・時計の文字板および裏ぶたの防水性能表示をご確認の上、下表を参照して正しくご使用ください。（1bar は約1気圧に相当します）
 - ・WATER RESIST（ANT）xx bar はW.R. xx bar と表示している場合があります。
 - ・非防水時計は、水中や水に触れる環境での使用はできません。
 - ・日常生活防水時計（3気圧防水）は、洗顔などには使用できますが、水中での使用はできません。
 - ・日常生活強化防水時計（5気圧防水）は、水泳などには使用できますが、素潜り（スキューバビング）やスキューバ潜水などには使用できません。
 - ・日常生活強化防水時計（10気圧防水）は、素潜りにには使用できますが、スキューバ潜水・ヘリウムガスを使う飽和潜水には使用できません。
- | 名 称 | 表示文字板または裏蓋 | 仕 様 | 水がからず程度（浅瀬、浅瀬など） | 水がやや入る程度（一般水深に使用） | 水がかなり入る程度（マリンスポーツに使用） | 日常生活防水（日常生活防水） | 日常生活強化防水（日常生活強化防水） |
|------------------|---------------------|--------|------------------|-------------------|-----------------------|----------------|--------------------|
| 非防水時計 | — | 非防水 | × | × | × | × | × |
| 日常生活防水（3気圧防水） | WATER RESIST 3 bar | 3気圧防水 | ○ | × | × | × | × |
| 日常生活強化防水（5気圧防水） | WATER RESIST 5 bar | 5気圧防水 | ○ | ○ | × | × | × |
| 日常生活強化防水（10気圧防水） | WATER RESIST 10 bar | 10気圧防水 | ○ | ○ | ○ | × | × |

時計のお手入れ方法

ケース・ガラスの汚れや汗などの水分は、柔らかい布で拭き取ってください。

金属バンド・プラスチックバンド・ウレタンバンド（ゴムバンド）は水で汚れを洗い落としてください。金属バンドのすき間に付まったゴミや汚れは柔らかいハケなどで除去してください。

皮革バンドは乾いた布などで拭いて汚れを除去してください。

時計を長時間ご使用にならないときは、汗・汚れ・水分などを良く拭き取り、高温・低温・多湿の場所を避けて保管してください。

夜光付き時計の場合は
時計の文字板や針には、放射性物質などの有害物質を一切含まない、人体や環境に安全な物質を使用した蓄光塗料が使用されています。この塗料は太陽光や室内照明（白熱灯を除く）などの光を蓄え、暗い所で発光します。 ○蓄えた光を放出させるため、時間の経過とともに少しずつ明るさ（輝度）は落ちていきます。 ○光を蓄えるときの光の明るさや光源からの距離、光の照射時間や蓄光塗料の量などによって、発光する時間に差が生じます。 ○光が十分に蓄えられていないと、暗い場所で発光しなかったり、発光してもすぐに暗くなってしまう場合がありますのでご注意ください。

製品仕様	HR15
1.特 徴：	日本標準電圧電波（JJY40およびJJY60）を2曲自動切り替え受信し、時刻：経過年数（うるう年識別） ^{※1} ・月・日自動修正できるあかり発光機能搭載のアナログ電波時計
2.基 本 性 能：	時刻表示 / 時・分・秒（時計は2分毎に運計します） 日付表示 / 日付板による日付表示機能（2100年2月28日まで完全自日付表示 / 動修正） 年月表示 / 秒針による経過年数（うるう年識別） ^{※1} ・月表示機能
※1：「4. 手動による時刻、カレンダー合わせ ②月と年（うるう年からの経過年）の修正」を参照してください。	
3.付 加 性 能：	受信結果確認機能 電波受信による時刻自動修正機能（定時受信・強制受信・復活自動受信） 受信局自動選択機能（JJY40およびJJY60） 電波受信機能（定時受信・強制受信・復活自動受信） 受信番号表示機能（RX） 受信レベル表示機能（H、M、L） 受信結果確認機能 ソーラー電源機能 パワーセーブ機能 充電警告機能
4.時 間 精 度：	【電波受信ができない場合】 平均月差±2秒以内（常温標準帯+5℃～+35℃）
5.受 信 機 能：	定時受信・強制受信・復活自動受信
6.動作温度範囲：	-10℃～+60℃
7.受信電波：	日本長波標準電波 福島局（周波数40kHz： JJY40） 九州大分（周波数50kHz： JJY60）
8.定時受信時刻：	1日最大回 2：00（AM）：／4：00（AM）
9.受信待受時間：	最短期2分 / 最長約15分（定時・強制・復活自動受信共通）
10.使用二次電池：	2次電池 1個
11.持 続 時 間：	フル充電～止まりまで約2年（パワーセーブが作動しているとき）、フル充電～止まりまで約6ヶ月（パワーセーブが作動しないとき）、2秒運計～止まりまで約6日

- 電波時計について
- 電波時計とは
この時計は、日本国内の2つの電波送信所（福島県と九州局）から送信される標準電波（時刻情報）を自動受信し、時刻やカレンダーを自動修正する電波時計です。
 - 標準電波について
標準電波は独立行政法人情報通信研究機構（NICT）が運用しております。この標準電波はほぼ24時間継続して送信されていますが、補修作業や雷対策等で一時的通信が中断されることがあります。詳しい情報は日本標準時刻グループのホームページをご覧ください。
- http://jij.nict.go.jp/

※ホームページのアドレスは変更になる場合があります。

- 電波送信所について
標準電波は以下の2ヶ所より送信されています。
-

- 受信範囲の目安
この時計は福島県および九州局の両方の電波を受信可能です。受信可能範囲としては両局の電波送信所からのそれぞれ距離が900kmが目安です。ただし、これはあくまでも目安であり、その他の要因（周辺の地形・構造物、気象条件など）で900km以内でも受信できない場合がありますのでご了承ください。また、距離が遠くなるにつれて電波は弱くなります。
- 受信環境について
受信の環境は、以下のことに注意して行ってください。
 - 電波遮断物
付近に金属製の建築物があると、電波を反射・吸収させるため、受信がしにくくなります。鉄筋コンクリートの建物の中、高層ビルや山などの谷筋、地下鉄、電線、飛行機の中
 - ノイズ発生物
付近に強いノイズを発生させているものがある場合、電波を受信するのが難しくなります。高圧線（電線）、電車の鉄線、飛行機（通信施設）、変電所の近く、通話中の携帯電話の近く
 - アンテナの向き
この時計は、ケース面の9時位置に電波を受信用のアンテナが組み込まれています。上手に受信するためにはこのアンテナを電波送信所の方向に向けて、時計を密着に置いてください。使用環境で受信レベルが変わってきます。時計の受信レベル（H、M、L）を参考に、所要電波の最もき場所を変えて受信を行い、受信レベルが「H」か「M」を指す受信しやすい場所および方向を探してください。
 - 時計の状態
時計は開けられ、受信中はなるべく時計を動かさないようにしてください。動かし続けたり、安定した受信ができなくなります。
 - 温度環境
極端な高温や低温の場所では受信がしにくくなります。
 - 電気の影響要素
気象条件・雷・地磁・手動によっても受信がしにくくなります。

商品の特徴

この時計は文字板面にソーラーセルを配し、光エネルギーを電気エネルギーに変換して時計を駆動させるアナログソーラー電源機能搭載ウォッチです。

- （ソーラー電源機能搭載ウォッチの上手な使い方）**
- 快適にこの時計をご使用いただくためには、余裕を持って充電することを心がけてください。この時計はどんなに充電しても過充電の心配はありません。（過充電防止機能付き）
- 毎日の充電を心がけてご使用されることをおすすめいたします。

ソーラー電源機能搭載ウォッチ 取り扱いの注意

- 同じタイプでも文字板のデザインにより受光量が異なり充電時間が異なります。
- フル充電すると光を受けない状態でも持続時間内であれば、時計は正常に動き続けます。
- 時計ははずした時には、できるだけ明るい所に置くように心がけますと、時計は常に正しく時を刻み続けます。
- 長袖などで、常に光を遮れない状態の時、止まる場合がありますので、ご注意ください。

- △警告 二次電池の取り扱いについて**
- お客様は時計から二次電池を取り出さないでください。
 - やむを得ず二次電池を取り出した場合は、誤飲防止のため、幼児の手の届かない所に保管してください。
 - 万一、二次電池を飲み込んだ場合には、ただちに医師と相談して治療を受けてください。
 - 一般のゴミと一緒に捨てないでください。発火、環境破壊の原因となりますので、お住まいの自治体の指示に従ってください。

- △警告 指定の電池以外は使わないでください**
- この時計に使われている二次電池以外の電池は絶対に使用しないでください。他の種類の電池を組み込んだりでも時計は作動しない構造になっていますが、無理に銀電池などの他の種類の電池を使い、万一充電されると過充電となり電池が破裂して時計の破損および人体を傷つける危険があります。二次電池交換の際は、必ず指定の二次電池をご使用ください。

- △注意 充電上の注意**
- ・充電の際に時計が高温になると、故障の原因となりますので、高温下（約60℃以上）での充電は避けてください。
 - 例）白熱灯、ハロゲンランプなど、高温になりやすい光源に時計を近づけての充電、車のダッシュボードなどの高温になりやすい場所の充電。
 - ・白熱灯で充電するときは、必ず50cm以上離して、時計が高温にならないよう注意して充電してください。

二次電池の交換について
この時計に使われている二次電池は充電・放電を繰り返し行えるため、一般の電池のように定期的な電池交換の必要はありません。

ソーラー電源機能搭載ウォッチ 特有の付加機能について

- 充電告知機能
-
- 充電不足を知らせていますので、十分に光を当ててください。
- 2秒運計は、約4日間または約1日間続きます。
- ※2秒運計している時、時計は正確に作動しますがキャパシタの容量が減っていますので、1秒運計になるまで、十分に光を与え、充電して使用するよう心がけてください。
-

- 充電が完了しても変則2秒運計は止まりません。
- 時計が止まって充電をした後は、必ず時刻合わせをしてください。時刻合わせをしない場合は、時刻合わせするまで変則2秒運計が止まりません。時刻合わせを行うと変則2秒運計は止まります。

- クイックスタート機能
- 充電が全くされていないと時計は停止してしまいます。光を当てると、約10秒で時計の針が動き始めます。（モデルや光の明るさによって、針が動き出すまでの時間は異なります。）ただし、この時に光をさえぎると充電が十分でないため、時計が再び停止してしまいますので、ご注意ください。
- 過充電防止機能
- 二次電池がフル充電されると、それ以上は充電されないように過充電防止機能が働きますので、安心して充電ができます。

- パワーセーブ機能について（パワーセーブ）
- ソーラーセルに光が当たらず、発電されない状態が続いて1週間継続した場合は、各針が12時で止まり、パワーセーブ（睡眠状態）になります。
- 日付は、昨日と当日をまちい位置で停止します。その後、1日1回午前0時に、自動的に修正されます。
 - 定時受信は、通常運計状態と同じく1日2回受信を行います。
 - 充電警告機能（2秒運計時）も同じでも、光が当たらないとパワーセーブになります。
- （パワーセーブ）
- ソーラーセルに光を当て発電が始まると、パワーセーブが解除されます。
- パワーセーブが解除されると各針が高速（正転または逆転）で現在時刻にもどり、1秒運計を開始します。
 - 充電不足の場合は、2秒運計を始めます。十分充電し1秒運計にもどってください。
- 注意：パワーセーブ作動中も定時受信を行います。保管環境によっては、受信できない場合もあります。パワーセーブ解除後は、（A）が押して受信結果を確認してください。変換結果が「NO」の場合は、強制受信を行ってからご使用ください。
- 注意：りゅうずまたは、ボタン操作では、パワーセーブは解除できません。光を当てて解除してください。

- 充電時間の目安
- 時計のモデル（文字板の色など）により充電時間は異なります。あくまでも目安としてご利用ください。

キャリバー NO.	温度（リックス）	環 境	充電時間		フル充電時間からの持続時間
			一日分の充電時間	1日10%～15%の充電時間	
HR15	500	標準 50℃ (1000時間/25℃～30℃)	48時間	28時間	約6ヶ月
	1,000	標準 50℃ (1000時間/25℃～30℃)	35分	45時間	
	3,000	標準 50℃ (1000時間/25℃～30℃)	10分	150時間	
	10,000	標準 50℃ (1000時間/25℃～30℃)	4分	6時間	

※充電時間は連続照射時間です。

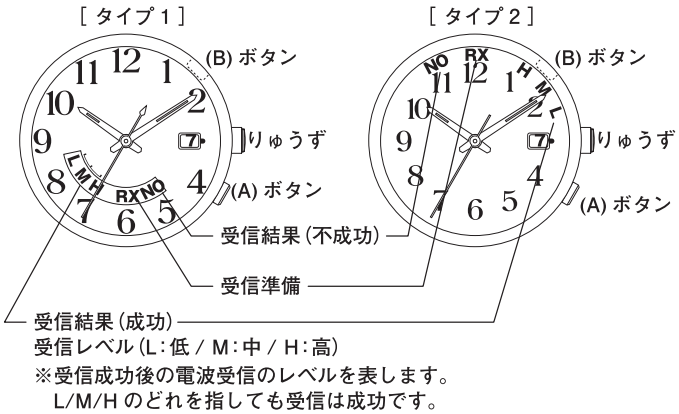
- ※秒針が2秒運計している場合も、「フル充電までの時間」を参考に十分に充電してください。
- フル充電時間………時計が充電不足で停止している状態から最大に充電されるまでの時間。1日分の充電時間＝時計を通常運計で1日動かすのに必要な時間。

注意：フル充電後、一度も充電されない、持続時間は約6ヶ月となります。パワーセーブが作動しているときは、約2年間時刻を刻み続けます。ただし、充電不足で停止してしまうと、表のように時計が動き出すまでに時間がかかりますので、毎日の充電を心がけてご使用ください。なお、月に一度は直射日光や電灯の光を当てて充電されることをおすすめいたします。

こんなときは

- 正確な時刻を表示しない。
 - ①受信はできてますか？
Aボタンを押して受信結果をご確認ください。受信NOの場合は時刻修正はされてません。この時計は標準電波が受信できないときはフォーツの精度（月差±20秒）で動きます。受信に適する環境で受信を行ってください。それでも受信できない場合は、お手数ですが、[2. 電波の受信方法 2. 強制受信]を参照の上、時刻を修正してください。
 - ②針の基準位置はあってますか？
[3. 基準位置の合わせ方]を参照の上、針の基準位置をご確認ください。針の基準位置が正しくなかった場合は針の基準位置を修正してください。
- 針がとまったりままだかない。
 - ①りゅうずが引き出されたままになってませんか？
りゅうずを通常位置に戻してください。しばらとすると針は動き出します。ただし、時刻は合っていないせん。
 - ②秒針がRX位置に停止していませんか？
受信中の可能性があります。受信がおわるまで約15分待つて再度、針の状態をご確認ください。
- 受信が成功しない。
 - ①受信環境が良くない所で受信していませんか？
「電波時計について受信環境について」を参照の上、受信環境を改善してください。
 - ②受信確認の際、針がずれている。
[3. 基準位置の合わせ方]を参照の上、針の基準位置を修正してください。
- 秒針が2秒運計をしている。
 - ①充電警告をしていませんか？
時計が止まる前に直射日光や蛍光灯の光を当てて充電してください。

1. 各部の名称

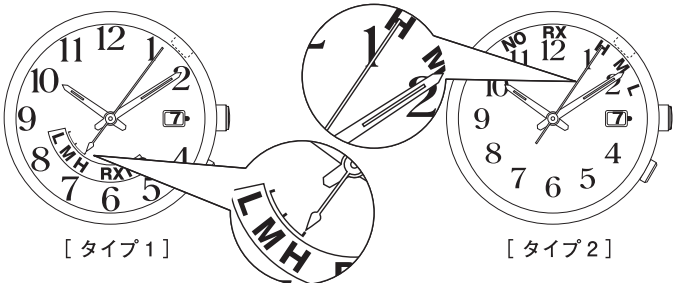


※受信結果を秒針の先端と根元で表す2タイプがあります。お手持ちの時計をご覧ください、デザインをお確かめください。
デザインが違ってても取扱方法は同じです。以下の説明の絵はタイプ1のモデルです。

2. 電波の受信方法

1. 定時受信

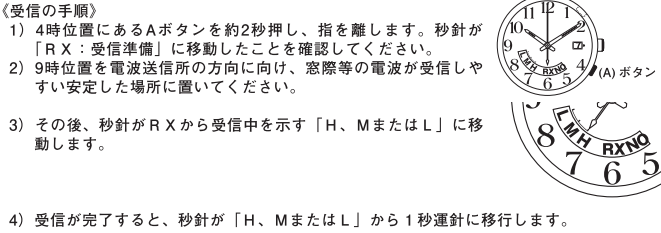
毎日午前2時と午前4時の2回、秒針が「RX: 受信準備」に移動し、自動的に受信を始めます。



《受信の方法》
時計を腕から外して、9時位置を電波送信所の方向に向け、窓際等の電波が受信しやすい安定した場所に置いてください。午前2時と午前4時の2回、自動的に電波を受信します。

2. 強制受信

時計を腕から外して、9時位置を電波送信所の方向に向け、窓際等の電波が受信しやすい安定した場所に置いてください。4時位置にあるAボタンを約2秒押すと、受信を始めます。
※強制受信中は時計が1秒運針するまで動かさないでください。



※どうしても受信できない場合は、お手数ですが、後述の「4.手動での時刻合わせ」を行ってください。

3. 復活自動受信

充電不足で時計が止まった後、時計に光を当て十分に充電されると、一度だけ自動的に受信を行います。

《受信の手順》
9時位置を電波送信所の方向に向け、窓際等の直射日光が当たり、かつ電波が受信しやすい安定した場所に置いてください。

4. 受信中の秒針の位置

〔受信準備中: RX〕
秒針がRXに移動し受信の準備を始めます。
分針は秒針に対応した位置で停止します。

〔受信中: H・M・L〕
秒針が受信レベルに対応した位置に移動し受信を始めます。
受信をしている間 (秒針が受信レベル表示中) も、正しい時刻を表示するように秒針が回転し、分針を現在時刻に合わせます。

〔受信完了〕
受信が完了すると、各針およびカレンダーが自動的に修正され秒針が1秒運針を始めます。

注意: 受信中まれに受信局が切り替わり、秒針が「RX: 受信準備」に移動し再度受信を開始する場合があります。

注意: 受信中は、秒針が「RX: 受信準備」から、「H、MまたはL: 受信レベル」に移動します。受信が完了すると、秒針が1秒運針にもどります。1秒運針するまで時計を動かさないでください。

5. 受信結果の確認方法

受信完了後Aボタンを1回押すと、秒針が高速で「H、M、LまたはNO」へ移動し受信結果を確認できます。

注意: Aボタンを2秒以上押し続けると、強制受信を開始します。



受信結果は10秒間表示し、自動的に現在時刻にもどります。また、表示中にAボタンを押しても現在時刻にもどります。

《受信結果》

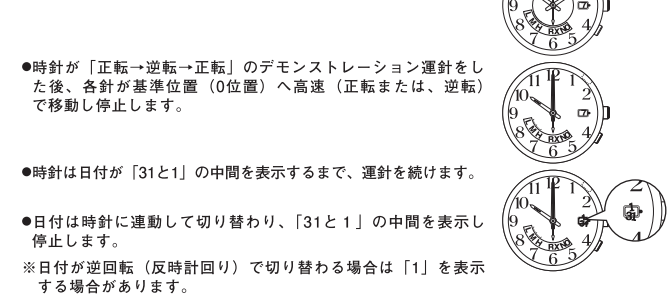
- 受信が成功すると: 受信結果にもとづいて、自動的に時刻、カレンダーを修正し、1秒運針を始めます。
- 受信に失敗すると: 受信前の時刻、カレンダー表示から、受信にかかった時間を追加した時刻にもどり、1秒運針を始めます。

3. 基準位置の確認と合わせ方

基準位置とは、時計内部のICが記憶している31日と1日の間00時00分00秒のときの針の位置です。通常、この基準位置では日付が「31日と1日の間」時分秒が「00時00分00秒」を表示します。ただし、電池交換や時計に強い衝撃を加えられたときや、静電気の影響等でICの記憶している位置と、実際の針の位置がずれる事があります。基準位置がずれていると受信しても正しい時刻を表示しませんので合わせ直してください。
※この操作は電波を受信しても時刻が正しくない場合にのみ行ってください。
※操作中、針が動いているときはリゅうず操作・ボタン操作は行わないでください。

①基準位置の確認方法

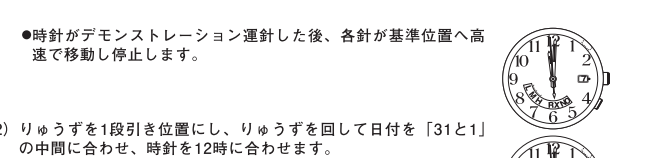
1) リゅうずは通常位置で、Bボタンを10秒以上押し、秒針が高速で移動を開始したら離します。



2) 基準位置を表示した後、Bボタンを押すと、高速で現在時刻にもどります。または、30秒以上ボタン操作またはリゅうず操作を行わないと、自動的に現在時刻にもどります。

②基準位置の合わせ方

1) リゅうずは通常位置で、Bボタンを10秒以上押し、秒針が高速で移動を開始したら離します。



●リゅうずを連続回転 (2クリック以上) させると、時計が連続運針します。時計が2回転すると、日付が1日分切り替わります。日付が「31と1」の中間を表示するまで、時計を連続運針させてください。連続運針を停止する場合は、リゅうずを左右どちらかに回します。

●日付が「31と1」の中間を表示した後、時計が12時を指すまでリゅうずをゆっくり回してください。

3) リゅうずを2段引き位置にし、リゅうずを回して秒針と分針を00分00秒に合わせます。

●リゅうずを回転 (1クリック) させると、秒針が1秒分運針し秒針に合わせて分針が運針します。リゅうずを右または、左に回転させて、「秒針と分針」を00分00秒に合わせます。

●リゅうずを連続回転 (2クリック以上) させると、秒針と分針が連続運針します。連続運針を停止する場合は、リゅうずを左右どちらかに回します。

4) リゅうずを通常位置にもとし、(B)ボタンを押します。

●各針と日付が高速で現在時刻にもどります。

※これで基準位置合わせは終了です。基準位置合わせ後は、必ず強制受信を行ってからご使用ください。

4. 手動による時刻、カレンダー合わせ

この時計は、海外など電波が届かない地域で使用する場合に、手操作で時刻やカレンダーを合わせることができます。電波が届く地域にもどったときは、定時受信、または強制受信を行ってください。

①秒針と分針の修正

1) リゅうずを2段引き位置にします。
秒針が正転または、逆転で0秒位置まで高速運針し停止します。
0秒位置で停止しない場合は、「3.基準位置の確認と合わせ方」を参照し、「基準位置合わせ」を行ってください。

2) リゅうずを回して、「分針」を合わせます。
1.右に回す (1クリック) と、秒針が時計回りで1回転し、分針が1分運針します。
2.左に回す (1クリック) と、秒針が反時計回りで1回転し、分針が1分逆転します。
※リゅうずを連続回転 (2クリック以上) させると、秒針と分針が連続運針します。
※連続運針を停止する場合は、リゅうずを左右どちらかに回します。

注意: 分針に運動して時針も運針するため、秒針と分針を連続運針して時計を合わせることができます。また、時針に運動してカレンダーも切り替わります。
注意: 2月30日や4月31日などの非存日は自動的に早送りします。早送り中は秒針と分針が12時で待機し、時針が連続運針し非存日を早送りします。

3) 時報 (TEL.117など) に合わせて、リゅうずを通常位置にもどしてください。

②月と年 (うるう年からの経過年) の修正

1) リゅうずを1段引き位置にします。
カレンダーの修正状態になり、秒針が記憶している「月」と「年」の位置に移動し停止します。

2) リゅうずを回して、「月」と「年」を合わせます。
1.右に回して (1クリック)、「月」と「年」に対応した位置に秒針を合わせます。
2.左に回す (1クリック) と、秒針が逆転します。
※リゅうずを連続回転 (2クリック以上) すると、秒針が連続運針します。
※連続運針を停止する場合は、リゅうずを左右どちらかに回します。
(例): うるう年の12月の場合: 0秒の位置に秒針を合わせます。
うるう年から3年経過した年の4月の場合:
23秒 (4時と5時の間) の位置に秒針を合わせます。

注意: リゅうずを1段引きしたときの月と年から、秒針を2周以上回して修正しようすると、秒針が2周回った時点でストップし、自動的にもとの月と年の表示にもどります。

3) 月と年修正後、リゅうずを通常位置にもどしてください。秒針が現在時刻にもどり、運針を開始します。

《非存日に合わせた場合》
日付を合わせた後、月を変更し日付が非存日になった場合、修正状態からリゅうずを通常位置にもどすと、日付が自動的に翌月の1日に切り替わります。

《月と年の見方》
☆月の見方
1月: 1時と2時の間
2月: 2時と3時の間
:
12月: 12時と1時の間
☆年の見方
うるう年: 各月のゾーンの最初の目盛り
うるう年から1年目: 各月のゾーンの1目盛り目
うるう年から2年目: 各月のゾーンの2目盛り目
うるう年から3年目: 各月のゾーンの3目盛り目

《うるう年からの経過年早見表》

年	経過年数	年	経過年数	年	経過年数
2009	1年目	2011	3年目	2013	1年目
2010	2年目	2012	うるう年	2014	2年目

③時針と日付を修正する手順

※日付は時計に運動しているため、単独では修正できません。時計を連続運針して切り替えます。
※時針と日付の修正は(B)ボタンを押し、時計が「正転→逆転→正転」のデモンストレーション運針した後10秒間または、時針修正後、時計が止まってから10秒間修正ができます。10秒間リゅうずまたは、ボタンいずれの操作も行われないと、自動的に通常表示にもどります。

1) リゅうずを通常位置にします。

2) Bボタンを1回押すと、時計がデモンストレーション運針後、「時針」と「日付」の修正状態に移行します。

3) リゅうずを連続回転 (2クリック以上) させると、時計が連続運針します。時計が2回転すると、日付が1日分切り替わります。当日の日付を表示するまで時計を連続運針させてください。
※連続運針を停止する場合は、リゅうずを左右どちらかに回します。
※「日付」は午後10時頃から午前3時の間に切り替わります。
※「月」が小の月に設定されている場合、「日付」を30日から31日に切り替えても非存日は、自動的に送られ翌月の1日を表示します。

4) リゅうずを回して「時針」を合わせます。
●右に回す (1クリック) と、時針が1時間分運針 (時計回り) します。
●左に回す (1クリック) と、時針が1時間分逆転 (反時計回り) します。
※リゅうずを連続回転すると、時針が連続運針します。
※連続運針を停止する場合は、リゅうずを左右どちらかに回します。

注意: 時刻修正するときは、午前、午後に注意して合わせてください。「日付」が切り替わったときが午前0時です。

《通常ご使用時のカレンダーの切り替わり時間》
●月と年: 1日の0時00分00秒で切り替わります。
●日付: 午後10時頃から午前3時の間に切り替わります。

困ったときは

次のような場合は下記操作を行って適正状態に時計を修正してください。

・操作をしていて時計の現在状態が分からなくなったとき
・受信結果の確認で秒針がOK・NO・「H/M/L」以外を示すとき
電波を受信しても時刻が正しくない場合にのみ下記操作を行ってください。

